

R18
For Adult Only



あ

と

て


魔

法

の

まほう

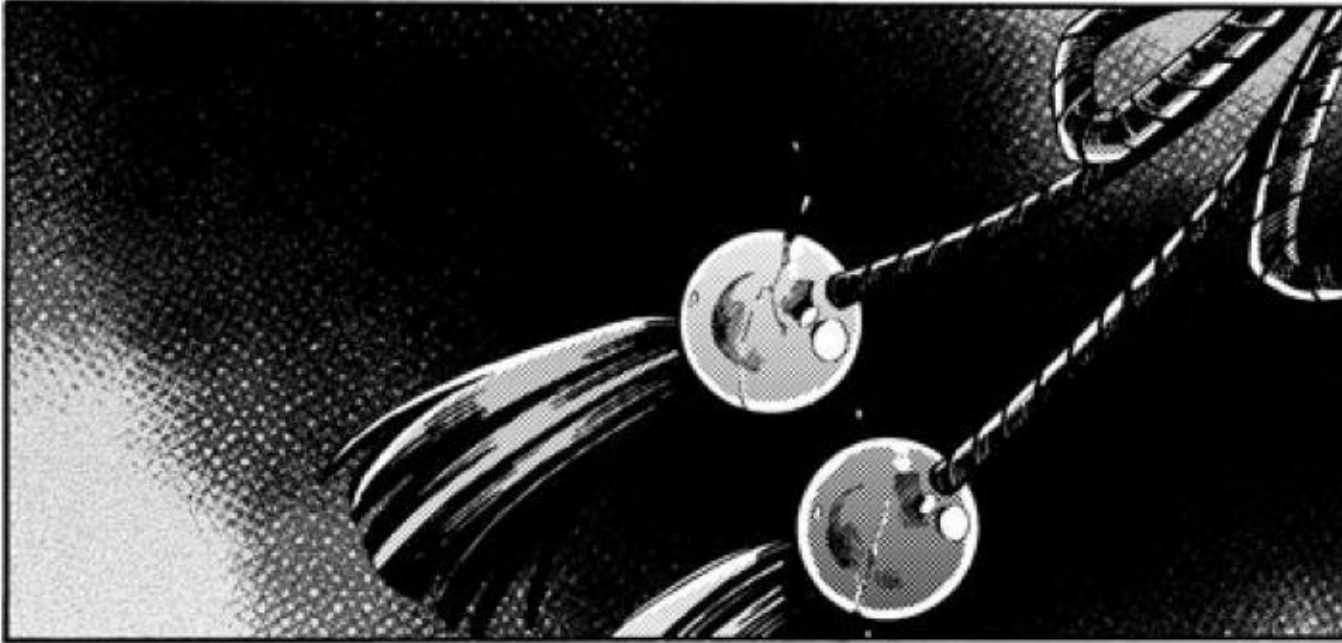




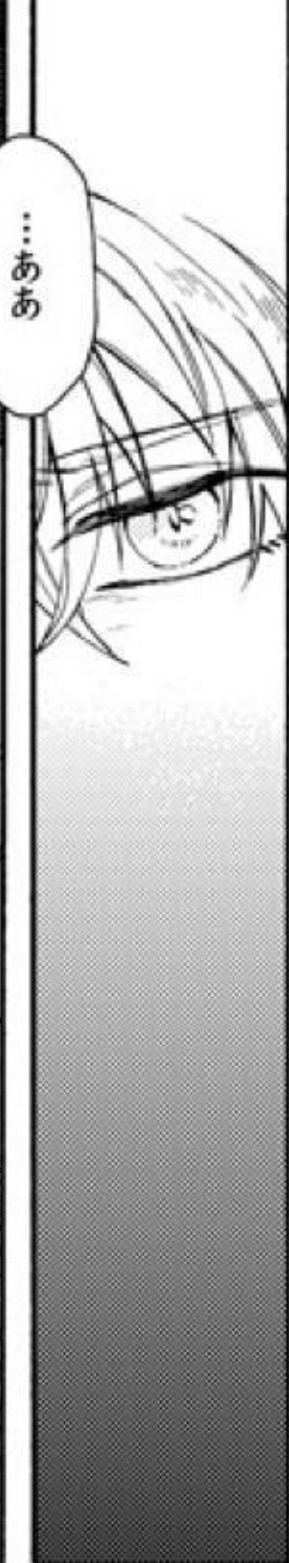
己の姿も分からない
闇の中

ただひとつ
この胸を苛む炎だけが

己を一期一振
とする奇刃



この身が朽ち腐れるまで
それだけだと思っていた



あるとき
やって来たのは
白い刀



…空…？



ほっとしたように微笑んだ
あの瞳をもう一度
見せてはくれないだろうか

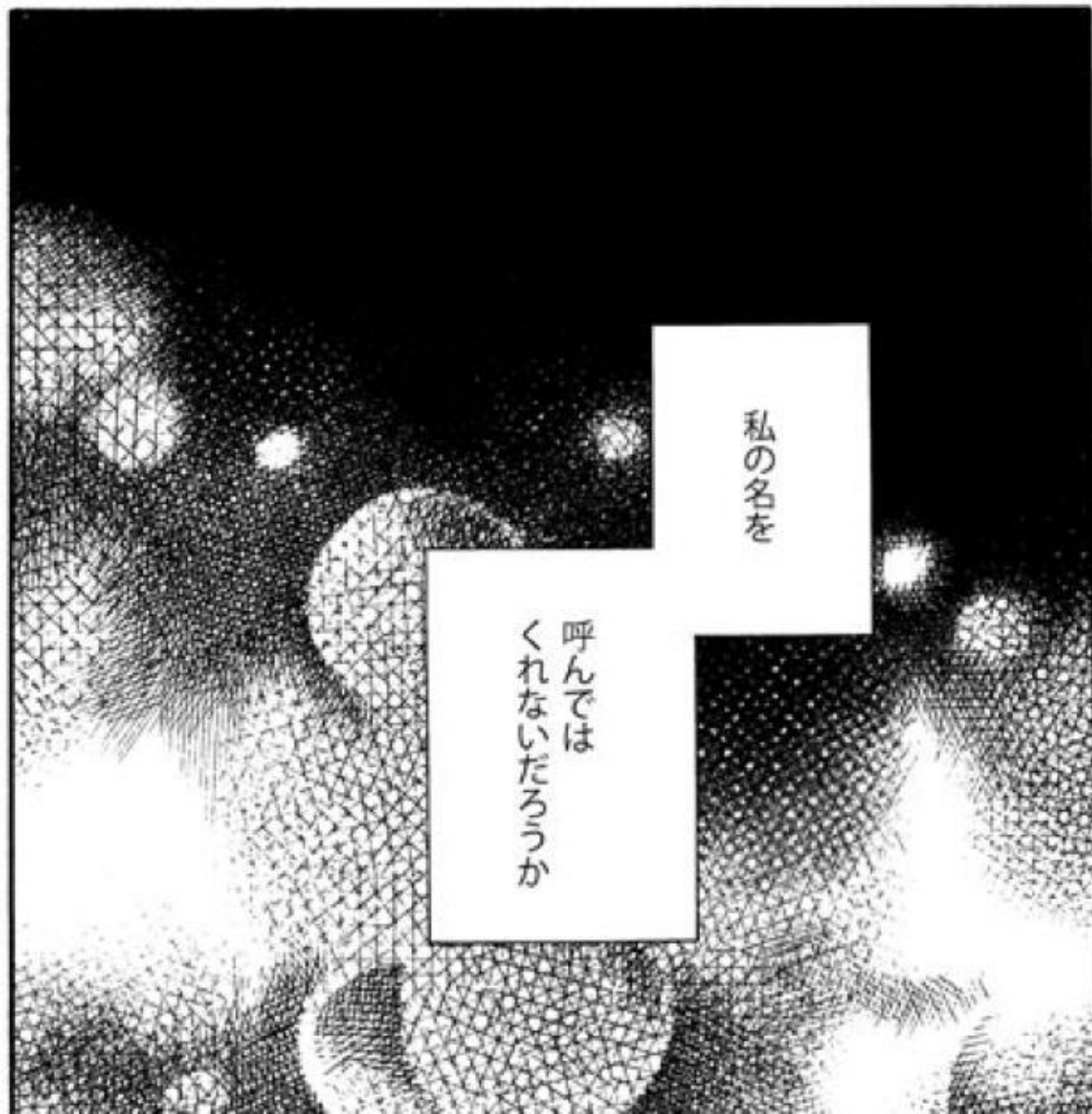
いつか貴方の見た
「空」を私にも教えて
くれないだろうか



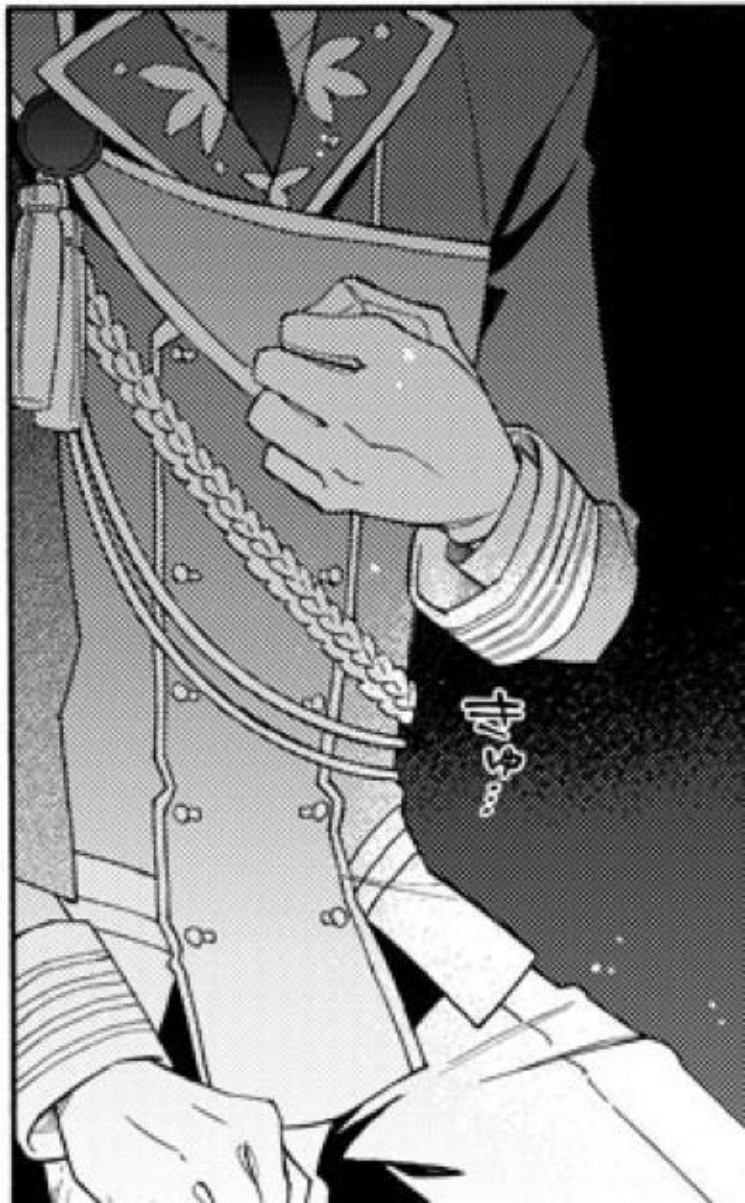
あ…
眠って
しまった…



それでもまだ
仄かに光っている



私の名を
呼んでほ
くれないだろうか







オーラが...

カッ

カッ

タイミングの悪さが尋常じゃない...

まさか配置替えとはねえ



一期一振
鶴丸国永

各々に部隊異動の命が下りた



一期は
第一部隊に

えっ!?

俺たちの部隊
じゃないか...!

鶴丸は

第三部隊に



それにしても
二人の仲が戻って
良かった



しかも俺は
明日から
七日間の遠征

でも一期くんの
練度が上がれば
一緒に出陣する機会も
増えるはずだし

そんなに
落ち込まないで!

ただでさえ白い
のにどんどん
白く...

ひまわり
お茶飲ませ!



大事な約束が
あるもんでな



君らにも
感謝してるぜ

ん...



さて
俺は行くとしよう



弟を寝かしつけたら参りますと言っていたが



迎えに行つて驚かせるのも一興…



栗田口



おいた

すか〜



あつこれ寝落ちてるな…!!

起つてくさのか…?





暗い夜は
特に…

過去の体験に
因るのでしよう

今の私に強く残る
のはその記憶くらい
ですから



炎の夢？



——誰にだって
囚われるものは
ある



蔵にいたとき
俺は君のおかげで
穏やかに眠ること
が出来た

その分を君に返す
ことはできないか？



…今日は貴方に
情けないところばかり
見せておりますなあ



貴方とこうして言葉を
交わすだけでずっと
気持ちになります

鶴丸殿…



夜話でも添い寝でも
何でもする

ふふ…私が弟に
することと同じ
ではありませんか



…言葉だけで



貴方は私に
我が儘を言わせる
のが上手で困る



十分かい？







部屋の前の庭で
見事に咲いて
いたから



これは…？



アハ

やっぱり君は

淡い色の花が
よく似合うなあ



暫く本丸を空けるが
俺の代わりと
思ってくれ

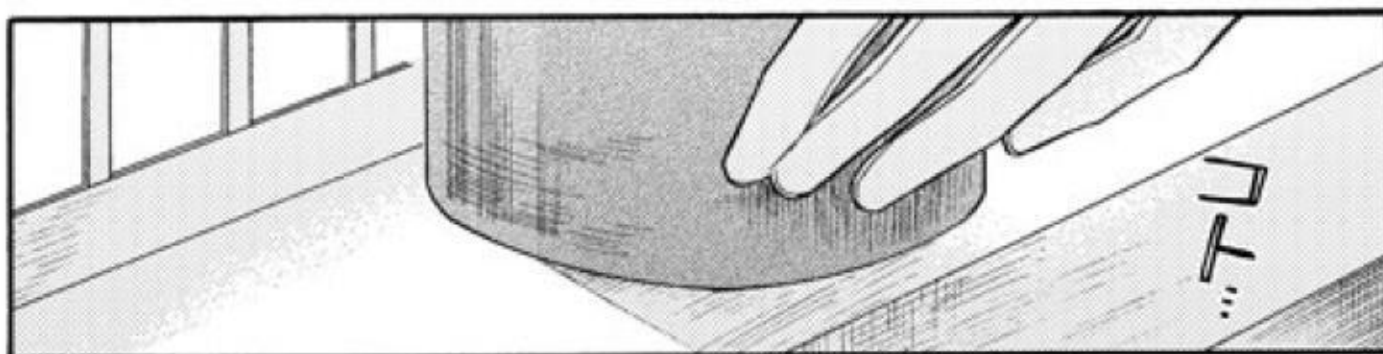
…ありがたく
いただきます





互いの武運と

成功を祈って...



...トッ



さっしりおかし



予想以上に
多いな

この六日間で
二十超えるんじゃないか？

時空の歪み



ここもだ



間違っても入るなよ

…戻れる
保証はない



つるまるはおどろきが
いっぱいうれしい
でしょう！

不穏な驚きは
喜べないぜ

無常漢か

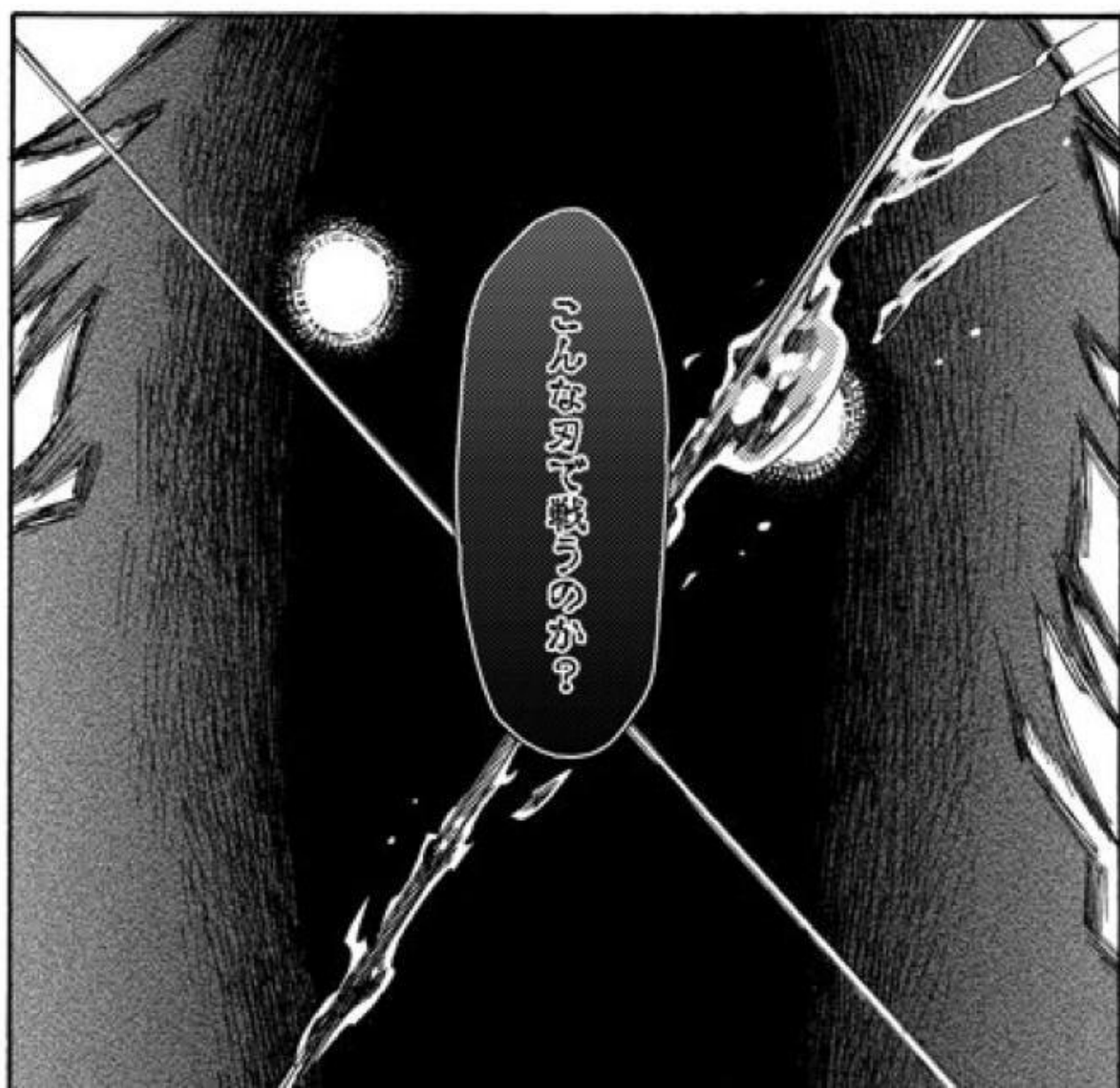


怖いですが…

しっかし見れば
見るほど不気味
だなあ…

中はどうなっ
てるんだ？







いち兄!





何も

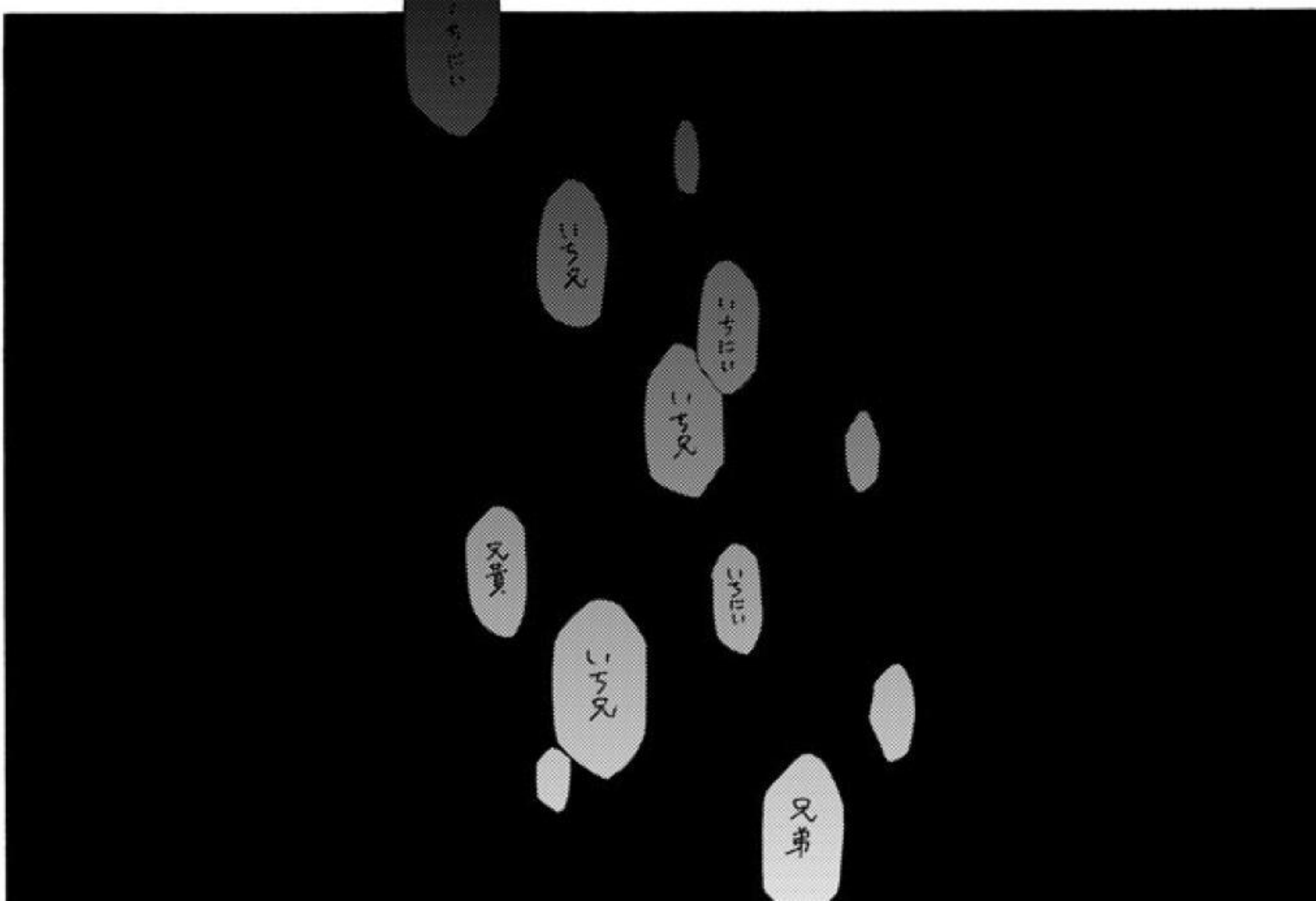
見えない



己の姿さえ
見えぬ暗闇

またここに
戻ってきたのか

ここはどこだ



いづみ

いづみ

いずみ

いづみ

又貴

いづみ

いづみ

又弟











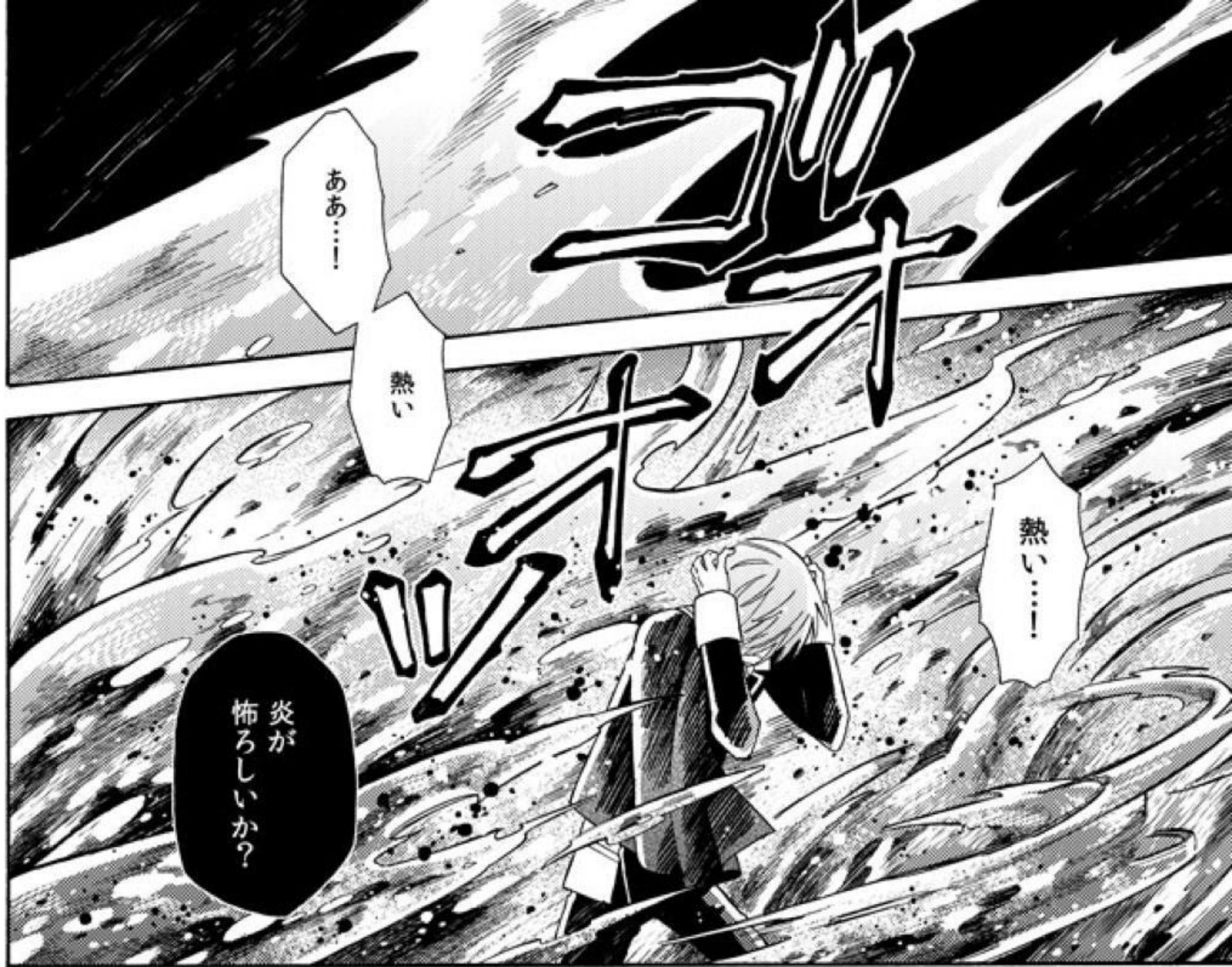
……っ!?
何を
する気だ!

隊長
許さない

必ず戻る

待て鶴丸!

グアアア



あめ……

熱い

熱い……!

炎が怖ろしいか?



お前の誇りを穢す炎なら

弟たちへの後ろめたさも



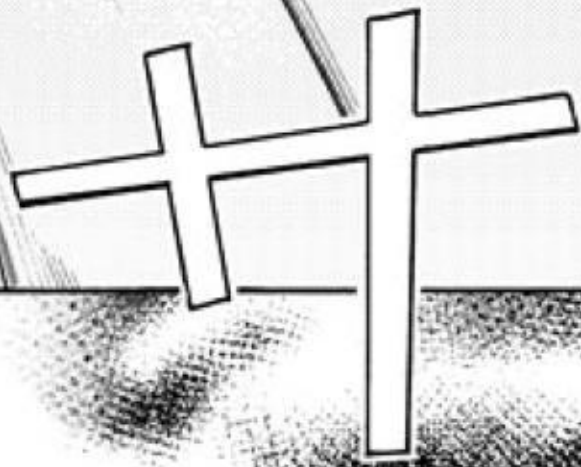
己を疑う苦しみもなくなる



ならば払ってしまえば良い



いま一度



在るべき処に
戻ろう



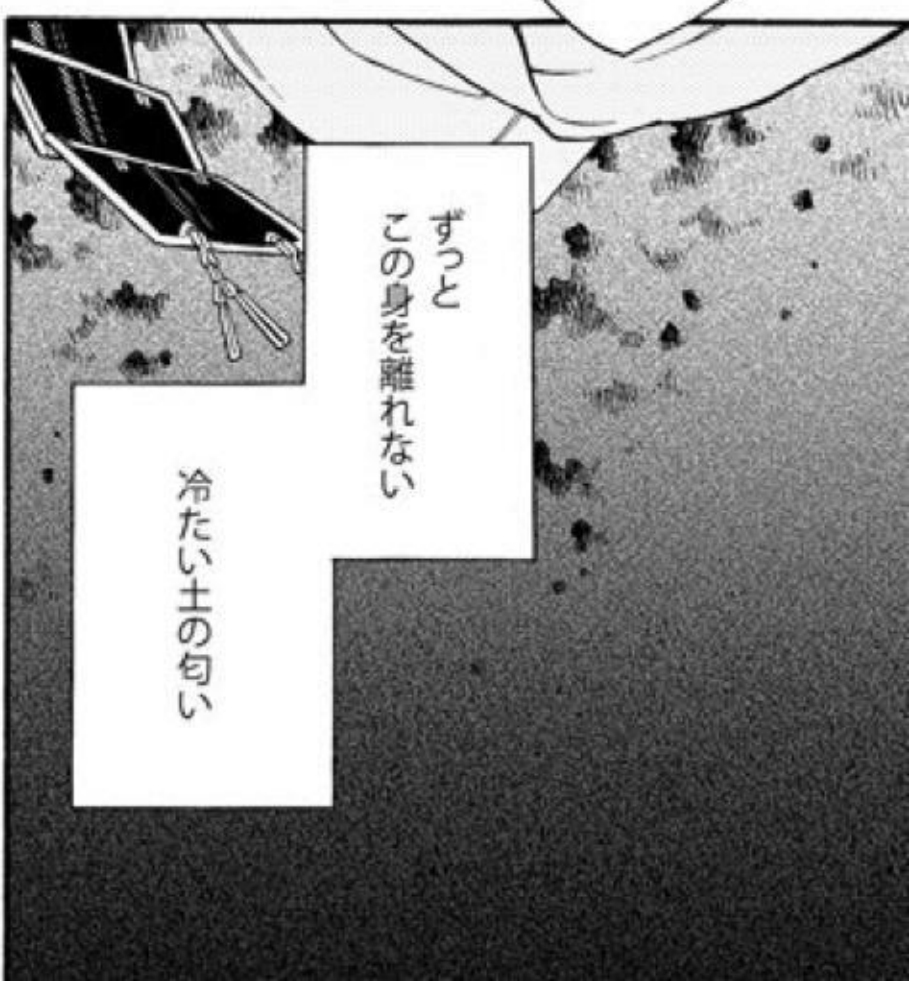
静かだ…

懐かしい
匂いがする



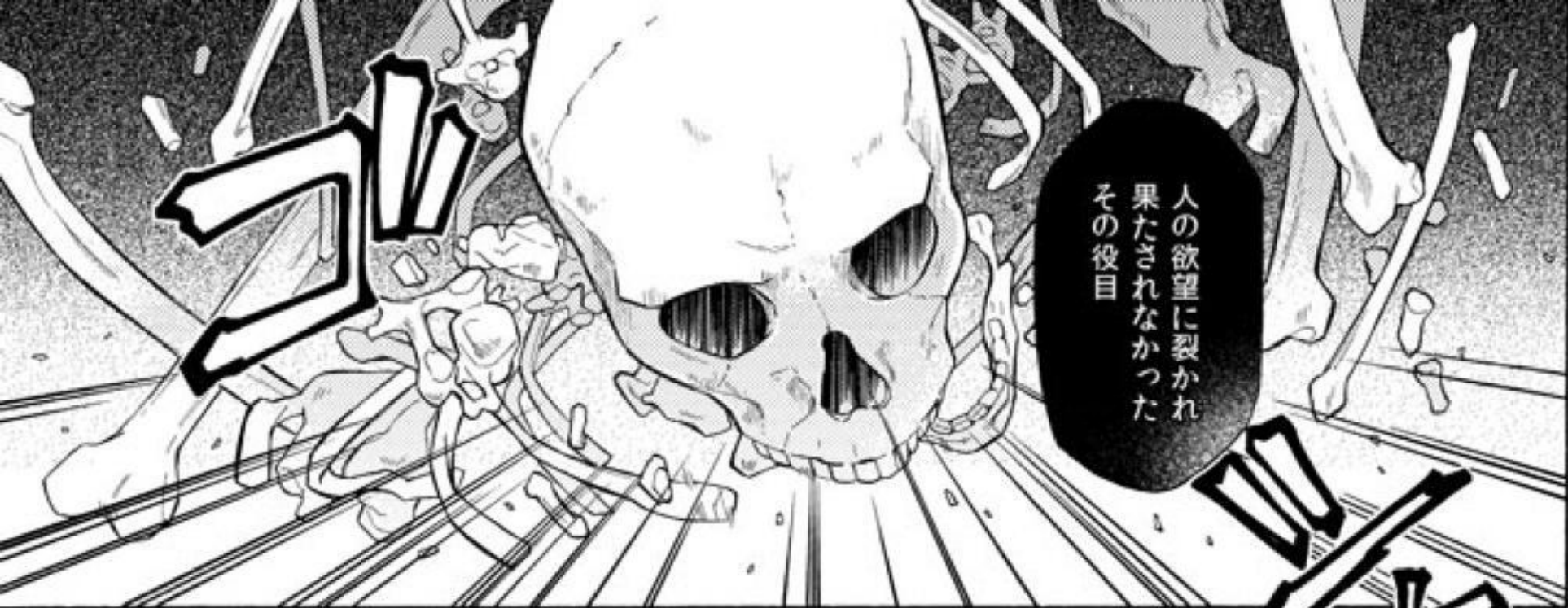
死出の旅路…

共に逝くが
刀の誉れ



ずっと
この身を離れない

冷たい土の匂い



人の欲望に裂かれ
果たされなかった
その役目



何をする！



ほら
亡者共が待っているぞ



死に絶え腐り落ち
永劫その魂を土に縛る

.....



これが
役目を放り


生に焦がれた
お前の罪だ



瞼を閉じれば
意識は闇に滑り落ち

待つのは空白と空虚
そして思い出す土の匂い

俺は夢を見たことがない



いつだか
きつとこの魂は眠るたび
土の下に還るのだ
と思うようになった

眠りは死だ



その虚無に近づく
瞬間を厭うていた

心が魂に反する
後ろめたさを感じて

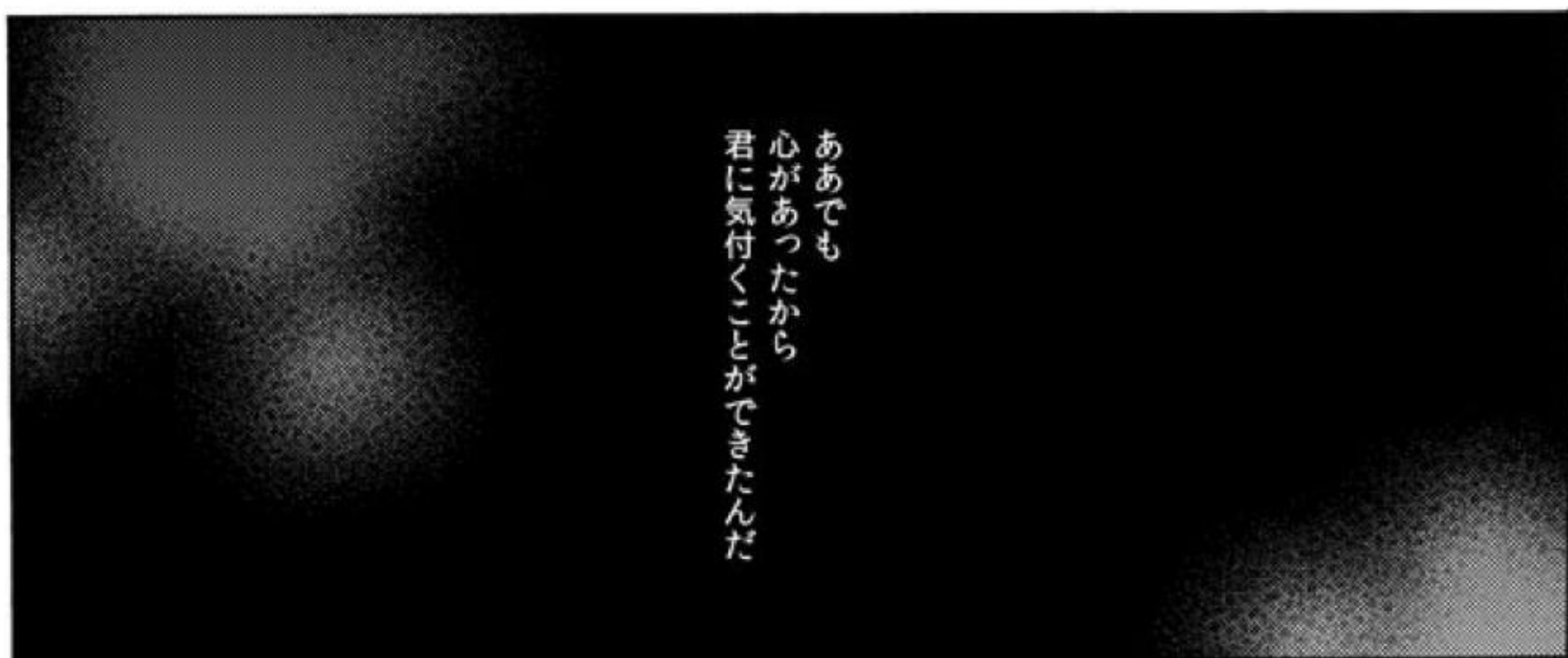
心がなければ
畏れも虚しさも
知らなかった

心がなければ
この身は迷いなく
使命を果たせた

腕が…

……？

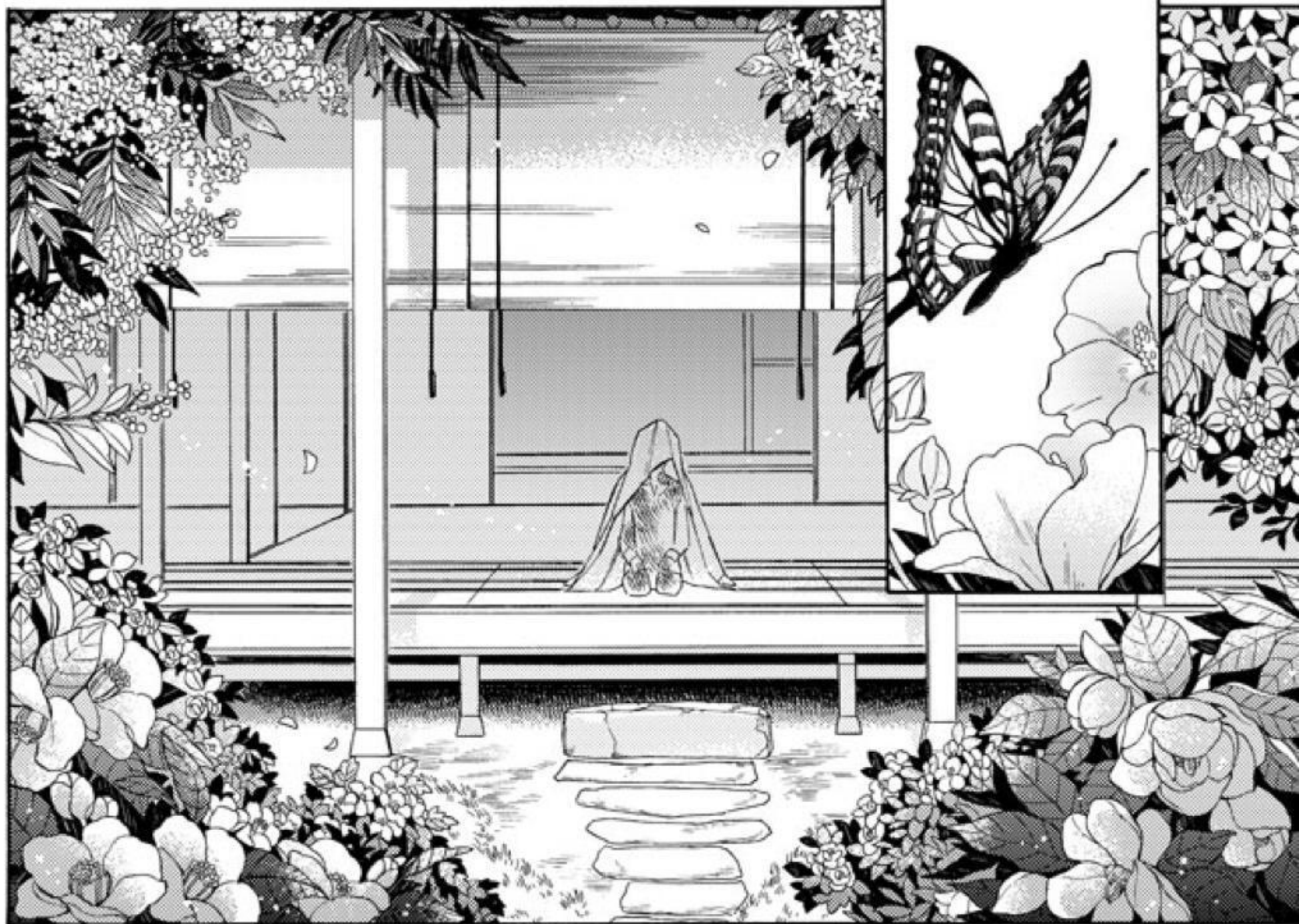
腕が…







アム...



こんなにも美しい
庭なのに

私は何かを
忘れているような...



ああ...

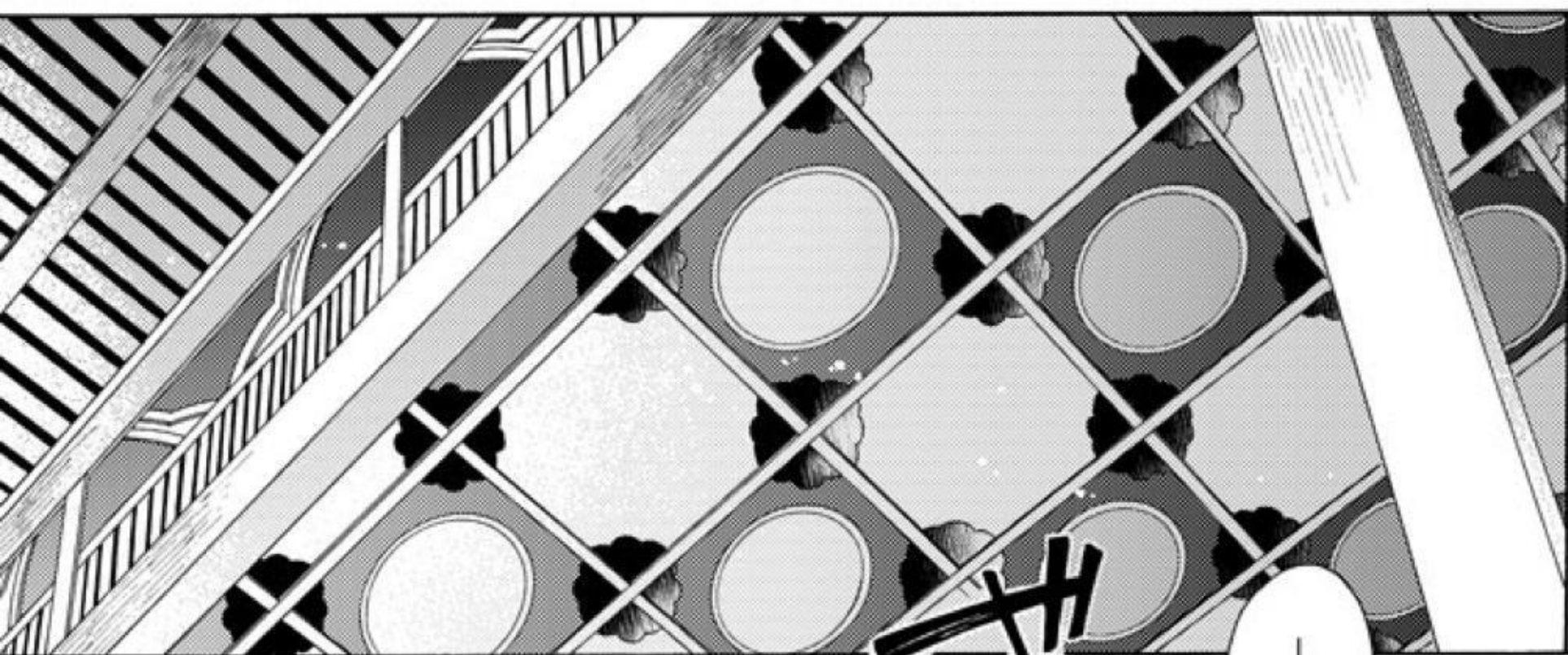
百日紅があんなにも
鮮やかに咲いている



それがお前の
求めるもの…

薄ら暈けた
その姿
記憶

今なら
取り戻しに行ける



……は……

あの方のくれた
花がない



花……

花がない



そのためならば

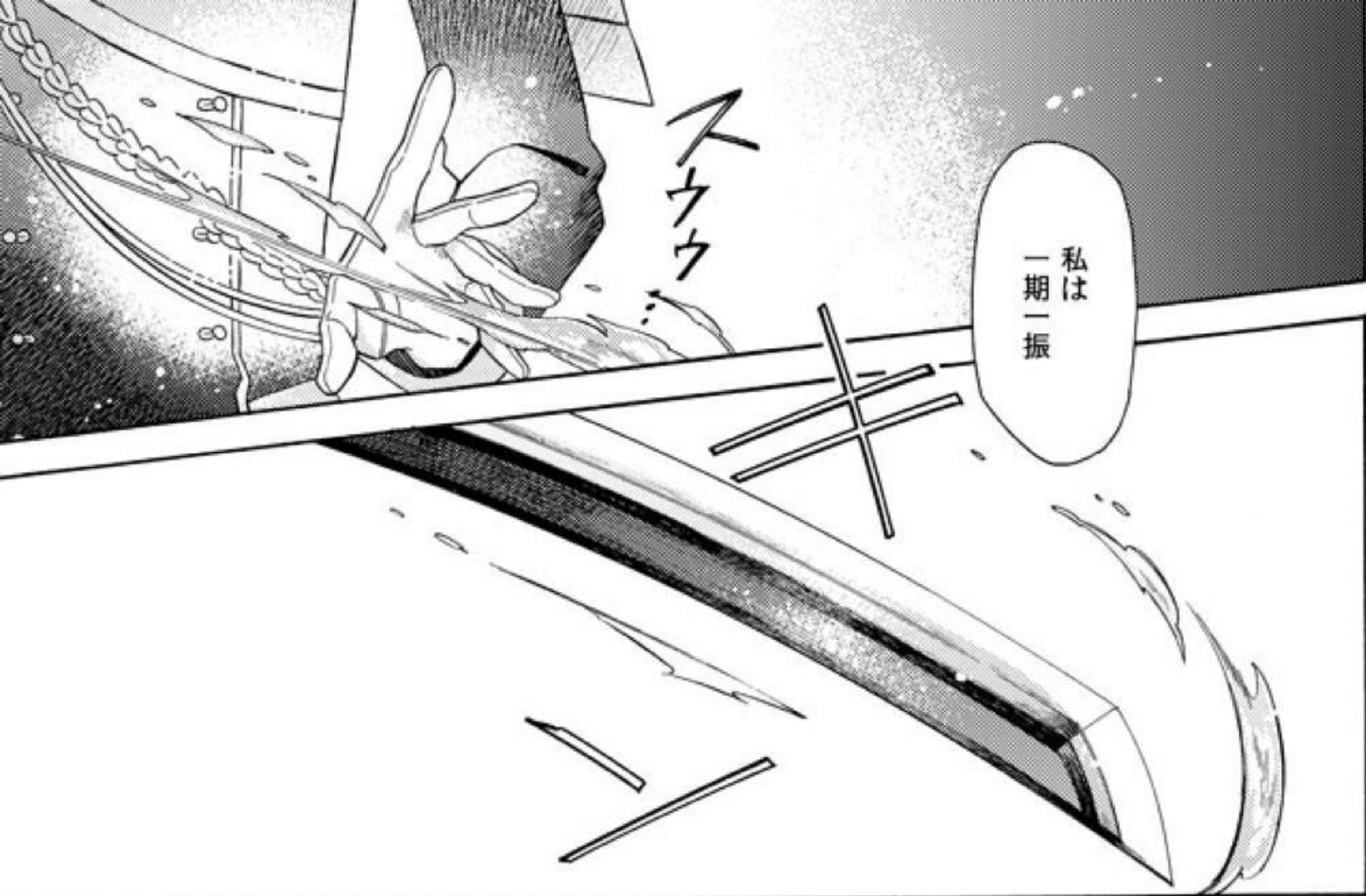
この身を焼く炎も
怖ろしくはなかった

あの方に
名前を呼んで
欲しくて

私は……



思い出した
私の姿



私は
一期一振

スウウ



馬鹿な……!

そのままが良い
はずがない!

お前の理想は
全部

全部全部全部全部

改変した世界
にあるのに!!





私はこの姿が良い



そう^{わが}希われたから



出口を
探さなくては...

じゅ...

しかし恐らく
ここは遊軍の
生み出した空間

どうすれば...



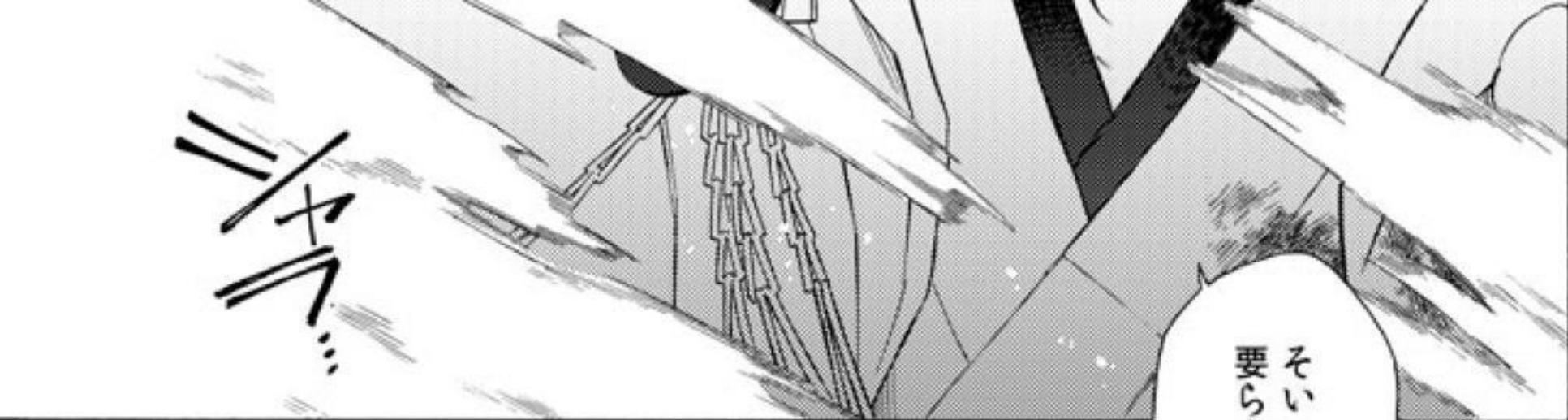
過去の…

ギ
ギ
ギ

過去の改変も！

改変も！

改変お
ツ



そいつは
要らん世話だぜ



一期!

鶴丸殿...!?



ほかん

??



本物...!?

えっな...
なぜ...!?

ムウウウ

...驚いたか?
君を助けに...

本物ぞー!

まさか単騎で
飛び出したんですか!?

俺もまだまだ
若いな!

笑い事じゃ
ないです!





今…
五虎退の音が

あそこか



いち兄……!



熱烈な歓迎だぜ

各個撃破と
洒落込みますか

ああ
大舞台の
始まりだ……!



皆疲れていたのか
すぐ寝付いてしま
いました

一期!

弟たちは?



皆の兄として…

藤四郎の名に恥じぬ
ようにと姿勢を正す
ことに精一杯で

結局私は当の自分を
信じ切れていません
でした



昨夜は順番に
様子を見に来て
いたようで…

落ち着いて
眠れなかったの
でしょう



此度は随分と
心配を掛けてしまった







貴方のために在る
この心

鶴丸殿…

貴方がいたから
私はここに戻って
来られました

その手で
確かめてください



んんん

こうしている
君も可愛い

ああ…
君の背中

真っ直ぐ伸びた
ところばかり
見ていたが





あつ



君の中...

こんな感じの...

こんなに
熱いんだな



身体が熱い

胸が熱い

名前を呼ばれるたび
触れられるたび
いっぱいになって

このひとで
満たされる

期



あの歳で俺が見た君は
こんな風だったん
だろうか



綺麗だ…



君

まるで暗がりから
覗く空みたいだ



このひとは
なんて目を
するのだろうか



キラキラ
してる

まぶしー



この瞳が私に
空をくれた光



くるくる
くにながさま

なんて綺麗



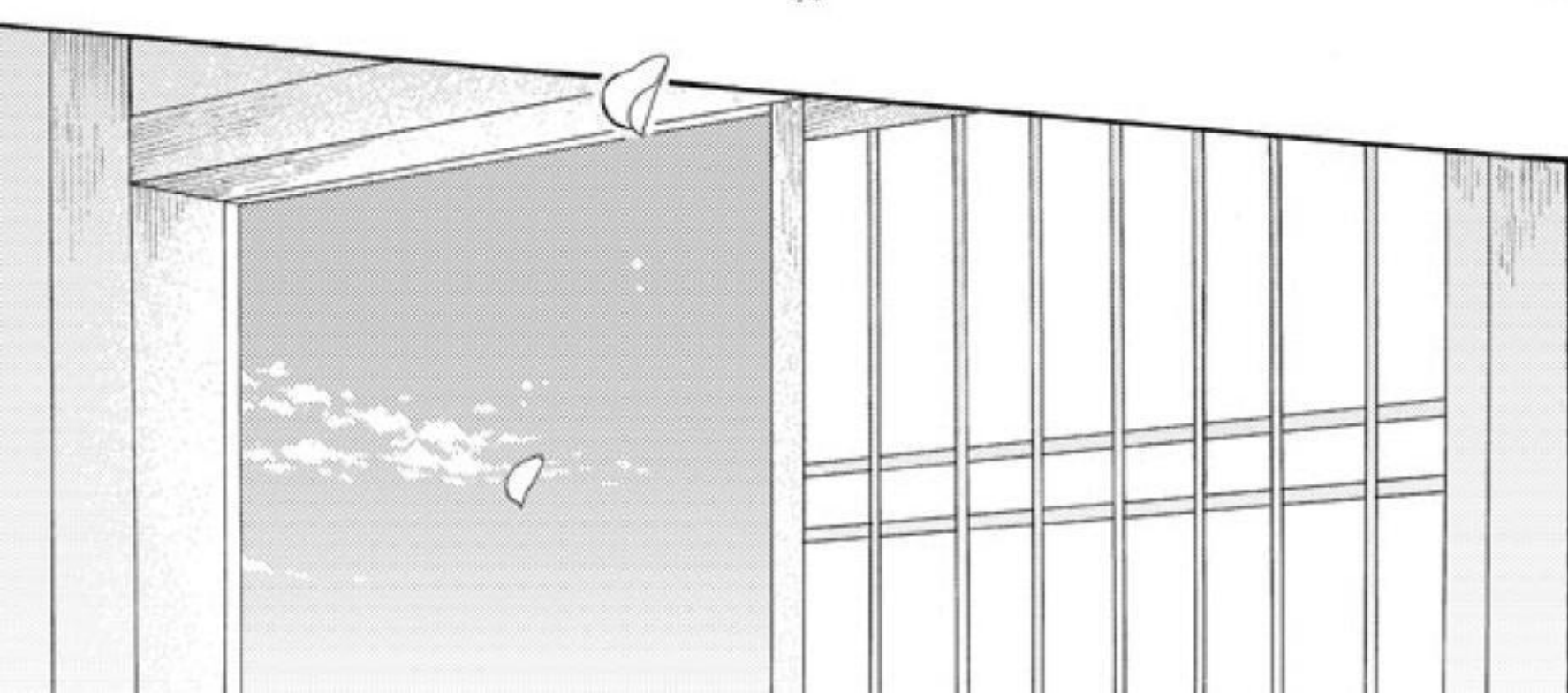
……っ！

キヤ
いま
この私を
もっと
あなただけの
ものにして

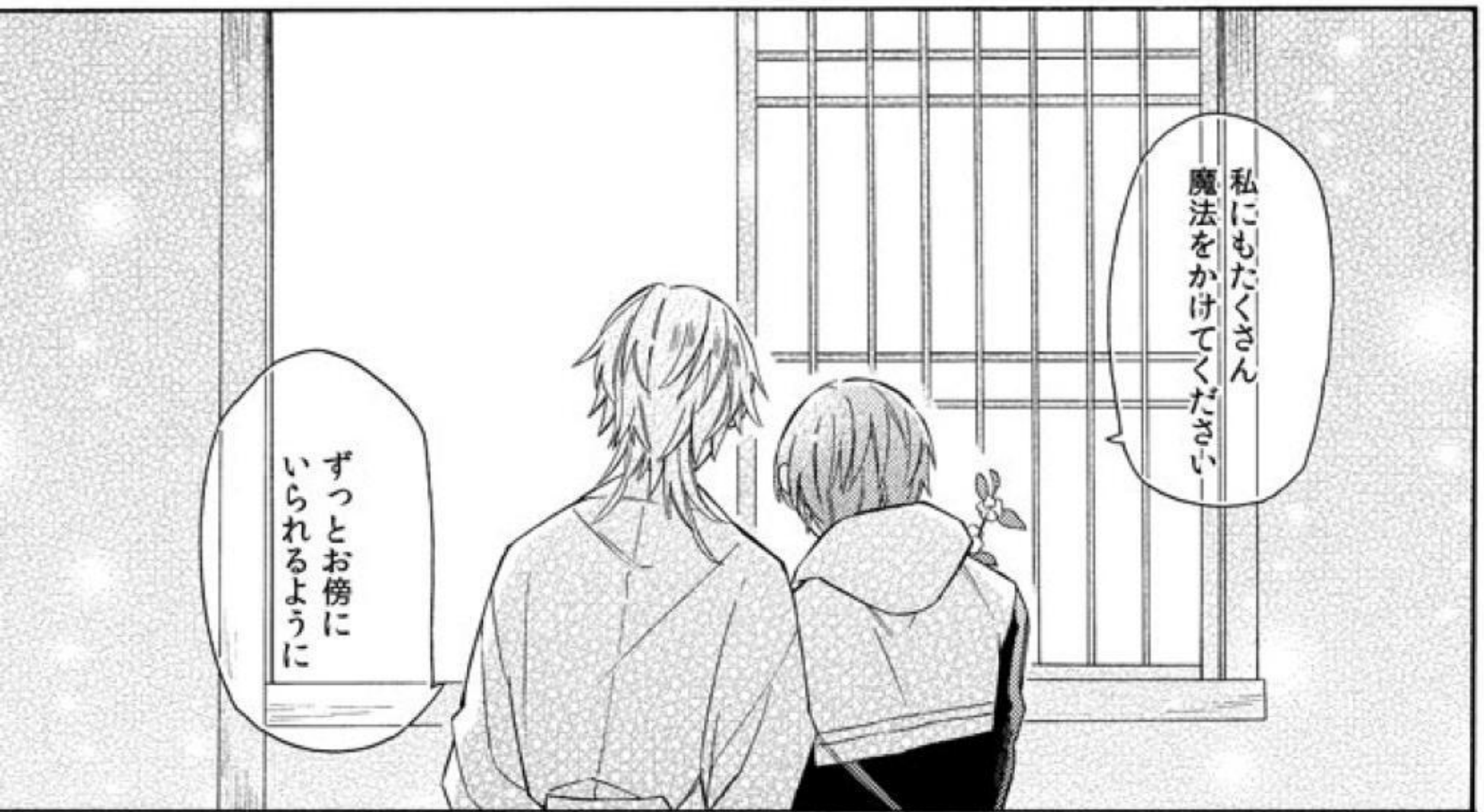


くる……











主様と山姥切さんが
呼んでいます！

降りてきて
くださーい！

あっ
鶴丸さんも！



さあー！



帰城してから揃って
報告の時間がありません
でしたからね…

おっと
お説教タイムだな…



二人で行けば
怖いものなしたぜ

さあ一期

